

令和2年度 第2回江別市行政改革推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和3年2月22日（月） 13:30～15:43

場 所：江別市勤労者研修センター

出席委員：千里政文委員長、吉川哲生委員、伊藤祥子委員、白川典子委員、
神保正志委員（計5名）

欠席委員：坂上伸也委員、野村奈津子委員（計2名）

事務局：政策推進課 石田参事、中住主査、北島主任

担当課：保健センター 児島参事、小野寺主査

介護保険課 阿部参事、左川主査、黒木主任

傍聴者：0名

会議概要

1 開会

2 議事

（1）行政評価外部評価ヒアリングについて

①行政評価外部評価ヒアリング

ア健康づくり推進事業

保健センター（健康づくり・保健指導担当）から説明

【質疑】

○千里委員長

資料1ヒアリング予定事項一覧に沿って質疑を始めたい。

まず、1（1）各指標について、①指標の関連性についてと、②対象指標1を活動指標と分類することについての質問が出ている。

神保委員から趣旨を簡単に説明していただき、その後、所管より簡素に説明を願う。

○神保委員

（1）各指標について、指標は対象、手段、意図の3つがあるが、それぞれの関連が分かりにくい。加えて、「地域健康づくり推進員事業実施回数」を対象指標として記載することに違和感がある。これは、市民全体に対する地域健康づくりのための取組であるため、活動指標として整理した方が分かりやすいのではないか。

次に、（2）費用内訳については、事業内容との関連を見た場合、会計費目毎に記載するのではなく、事業内容に対応して、それぞれの経費が分かるように記載する方がよい。

○保健センター（健康づくり・保健指導担当）

健康づくり推進員事業実施回数は、ご指摘のとおり活動指標とした方がよいのかもしれない。また、各指標と各事業の関連性が分かるよう指標に事業名を記載するなど検討したいと思う。

次に、金額の記載について、活動指標としていた補助金額については費用内訳に記載するなど、事業内容毎に分かりやすく示せるように今後改善を検討したい。

○千里委員長

次に、(3) 事業実施後のアンケートについて、野村委員から質問が出ている。

○事務局

本日、野村委員が欠席のため、事務局から説明をする。

野村委員からは、事業実施後にアンケートは実施しているのか。また、実施している場合はアンケート結果をどのようように事業に反映しているのか教えてほしい、との質問があった。

○保健センター（健康づくり・保健指導担当）

アンケートについては、実施している事業としていない事業がある。

アンケートを実施している事業については、どのような記事を見て参加したのかを調査し、最もPR効果の高いものには必ず次回も記事を掲載するなどしている。また、例えば、ふれあいレストランのアンケートでは、雰囲気がよく楽しかったなどの感想や意見が書かれていた場合、次回実施時に引き続き参加しやすい環境を作るなど参加者確保に役立てている。実際に健康に配慮した食事を食べていただくことについては、アンケートにおける「家でも作ってみたい」、「自分の食事が濃い味だと分かった」といった意見から、事業の効果を把握し、事業継続の意義を確認している。

アンケートを実施しないものについては、事業終了後にスタッフ間で反省会を行っている。参加者との会話の中で聞き取った感想や反応・理解度を共有し、反省点を改善することで、次の事業開催につなげている。

○千里委員長

他に質問、意見はないか。

○吉川委員

健康づくり推進事業の内容については問題ないと思うが、市民がどれくらい健康になったかが分かる成果指標が重要なポイントである。難しいと思うが、分かりやすい説明をするためには医療費など数値で示せるものがあるとよい。

○保健センター（健康づくり・保健指導担）

吉川委員の言うとおりに、医療費は健康改善として大きな指標になると思う。国などではそのような評価の仕方をしているが、実際に市民全体の医療費を把握しようとする場合、加入されている健康保険がそれぞれ異なり、市で把握出来る国民健康保険、後期高齢者の医療保険だけで評価しなければならなくなる。それ以外の健康保険は市として情報を把握することが非常に困難であるため、市民全体を評価することや市単独で効果を見ることは難しい。

一方、健康寿命は日本全体でも評価指標とされることが多く、健康寿命に近い指標を市町村ごとに把握出来るように国がシステムを少しずつ整えているので、柔軟に取り入れながら評価していきたいと考えている。

○事務局

吉川委員の質問について、事務局から補足する。

医療費は、所管から報告したとおりである。

市民の健康づくりに関する意識は、毎年、事務局である政策推進課が無作為抽出した3,000人の市民に対しアンケートを行っている。その設問の中に、健康に向けて取り組んでいることがあるかの項目を入れ、集計している。

個々の事業であれば、ひとつの事業の参加者数などを成果としているが、健康づくりに関しては、関連する様々な取組を通して市民の意識の変化を把握している。特に、今回、新型コロナの影響で各事業の参加者数が大きく落込んでいるため、来年度5月に予定している市民アンケートで健康意識などの数値が落ちないか懸念している。全体での把握も引き続き進めていきたいと考えている。

○千里委員長

新型コロナが蔓延している中で、市民の健康は非常に重要である。実際に様々なアンケートを行っているということで期待している。市民の安全を守るためにも頑張ってもらいたい。

次に、(4) 事業内容説明書の記載方法について、伊藤委員から発言願う。

○伊藤委員

事業内容説明書に記載している取組項目と事務事業評価表の手段が異なる順番で記載されている。同じ順番で記載されていると、より分かりやすく見やすい報告になる。

次に、(5) 活動指標1の令和元年度実績値について603件と記載されているが、計算すると602件となる。この理由はなぜか。

○保健センター（健康づくり・保健指導担当）

事務事業評価表の手段の順番どおりに事業内容説明書も記載すると分かりやすかった。今後この順番のどおりに記載したいと思う。

次に、事業の実施回数では、事業内容説明書には主な事業のみを記載しており、生活習慣病予防の健康づくり講演会の回数・人数が含まれていないので数字がずれている。今後はこの内容についても、分かりやすいように記載したいと思う。

○千里委員長

順番を揃えることは重要であるし、実施したことが記載されていないと伝わらないので、誤解を生んでしまうこともあると思う。

この件について、各委員から質問、意見はないか。

○神保委員

指標と実績値の関連が分かりづらい。602件と数字が合っていないという話が出たが、参加人数についても、事業内容説明書に記載されている人数を合計しても事務事業評価表にある6,453人にならない。事業内容説明書を表に出すならば、事務事業評価表と整合性があるか確認した方がよい。

○保健センター（健康づくり・保健指導担当）

講演会1回分の参加人数で合わなくなっている。今後、講演会の回数と人数を合わせて記載する。

○神保委員

全部について丁寧に記載しようとする1枚に入れることは厳しい。主なものを丁寧に

説明し、その他の形で整理するやり方もある。数字として整合性があれば、初めて見る人も分かりやすいのではないか。

○事務局

本日は事務事業評価表の内容を検証することを目的としており、添付資料として事業内容説明書やパンフレットなどを付けている。

事務事業評価表は公開しているが、事業内容説明書はあくまで委員会のためだけに作成した資料である。一方、神保委員の指摘のとおり、委員会の場で内容を見る際に、内容の数字が合っていなければ理解しにくい。その他という欄を設けて数字が合うようになるなど、次回以降、ヒアリング担当所管課に伝え、分かりやすい資料になるように努めたい。

○千里委員長

他に質問、意見はないか。

○吉川委員

参考までに本年度はオンラインでの講演会などの取組は行っていたか教えて欲しい。

○保健センター（健康づくり・保健指導担当）

オンラインでの講演会は実施していない。

○吉川委員

大学ではオンラインの授業を行っている。良い点としては録画が出来て、後から様々な人が見られることなどが上げられる。

講演会などはコロナ禍での開催は難しいので、オンラインで行い、ホームページなどにアップロードすることで、後から参加出来なかった市民が見られるので検討していただきたい。また、コスト削減が難しいとのことだが、市の建物を使うと会場費もかからないし、オンラインを活用することでコスト削減を考えられるので併せて検討していただきたい。

○千里委員長

コロナ禍において外出を自粛し、そのために健康を害している方もいる。引き続き、様々な方法で参加出来るようにしていただきたい。特にオンラインはこれまで参加出来なかった層が参加出来ることもある。コロナ禍だからこそ出来ることもあるのでよろしくお願ひしたい。

イ一般介護予防事業

介護保険課（地域支援事業担当）から説明

【質疑】

○千里委員長

資料1ヒアリング予定事項一覧2（1）活動指数2について、神保委員から説明願う。

○神保委員

この事業に限ったものではない可能性もあるが、事務事業評価表の指標名欄には平成31年度、実績欄には元年度と記載されている。平成31年は4月のみで5月以降は令和

元年だが、通常は元年度という形で通用しているのではないか。指標名欄、実績欄ともに令和元年度という表現の方がよいのではないか。

○事務局

神保委員の言うとおりに、1枚の紙の中で平成31年度と令和元年度の2つの表記が混在している。平成30年度中に指標を設定したためこの様な表記となっているが、現在は令和元年度が浸透しているので、次回以降、令和元年度に統一したい。

○千里委員長

続いて(2)事業を取り巻く環境変化について、神保委員から説明願う。

○神保委員

事業を取り巻く環境変化には、「介護予防講座の受講人数が年々減少している」と記載している。総数では減っているが、実施開催回数と受講人数との関係で1回あたりの受講者数を計算すると、1回あたりでは参加者は増えている。様々な事情で回数は減っているが、市民の関心は薄れているのではなく出来るだけ参加しようという気持ちもあると思うので、一概に否定的な表現をしなくてもよいのではないか。効果があるように整理してもよいように感じる。

○介護保険課(地域支援事業担当)

一回あたりの参加人数という視点で評価をいただき、非常にありがたい意見と受け止める。一方で、補足だが、設定した活動指標1と成果指標1については、介護予防の出前講話の開催回数及び受講人数を設定している。事業を取り巻く環境変化において記載をしている介護予防講座とは別の取組である。介護予防講座については、参加者数が減少している背景があることから、今後も引き続き指標の定量的な把握を行うとともに、事業の質においても定性的な評価を行いながらPDCAサイクルを意識した事業内容の検討を行っていきたいと思う。

○千里委員長

参加者が減少している理由として高齢化が進んでいることも記載されている。高齢者の人数が増えている中で75歳以上などの理由で参加出来なくなった方の割合は把握しているか。

○介護保険課(地域支援事業担当)

前期高齢者、後期高齢者の人数の推移は把握している。現在一般介護予防事業で取組んでいる内容に関しては、従来は講座型の普及啓発が多かったが、これまで以上に新規参加者の発掘を考えてアウトリーチ型の事業展開を考えている。併せて人口動態などを含めて今後事業の内容を検討したい。

○千里委員長

予防は重要だが、年齢的な限界がある。時代に応じて柔軟に対応することが必要である。

次に、(3)事業実施後のアンケートについて、野村委員から健康づくり推進事業同様の質問が出ているので説明願う。

○介護保険課(地域支援事業担当)

事業内容説明書には5つの取組項目を記載している。そのうちアンケートを実施してい

るのは、1番目介護予防講座（シニアの元気アップ講座）、4番目介護予防サポーターの養成、5番目介護予防体操の普及啓発の3つの取組である。

1番目の介護予防講座（シニアの元気アップ講座）では、講座を知るきっかけ、情報の取得手段について確認をしているほか、講座の分かりやすさや満足度、講座で学んだ取組のうち高齢者が実践出来ると感じた取組を調査している。この内容からPDCAサイクルを意識して講座の内容の見直しに活用している。

4番目介護予防サポーターの養成では、養成したサポーターの意欲や満足度を確認し、人材育成に資する見直しを行うための資料にさせていただいている。実際に養成されたサポーターにフィードバックを行い、更なる意欲の向上に努めている。

5番目介護予防体操の普及啓発では、主に地域の通いの場での活用状況や体操の継続状況を確認している。結果としては、主に会場やDVD再生機器の有無などの環境上の要因も把握もしている。再生機器の利用については、地域包括支援センターに配置しているDVD再生用プロジェクターやスクリーンの無料での貸出を紹介している。また、体操の内容に関わる項目の意見については、体操を無償で作成に協力していただいた地域のリハビリテーション職にフィードバックをしている。

○千里委員長

次に、（4）事業内容説明書の記載方法について、伊藤委員から健康づくり推進事業と同様の質問が出ているので説明願う。

○介護保険課（地域支援事業担当）

事業を口頭で説明するにあたり各取組の関連性から取組項目を並べ替えたが、分かりにくいという指摘があったので、事前に資料の差替えを行った。

○千里委員長

一般介護予防事業に関わる事項について終了した。

ヒアリング予定事項一覧の最後の事務事業評価表と事業内容説明書の文字について要望が出ているので、伊藤委員から説明願う。

○伊藤委員

紙面の都合もあるが、全体的に文字が小さくて見にくいと感じる。

○事務局

資料の文字が見づらいという意見についてだが、事務事業評価表は市のシステムで作成しており、文字数や大きさを変更する場合は費用が発生する可能性がある。また、文字の大きさを変更すると全体的なレイアウトも変わるので、情報量が少なくなるというデメリットもある。そのため、すぐに対応することは難しい状況だが、事務事業評価表そのものを見直す際には、いただいた意見も踏まえて検討させていただきたい。

もう1点、事業内容説明書について、事務事業評価表よりは大きい文字で記載させていただいているが、ご意見を踏まえ、フォントや行間の変更も含めて見やすい資料作りになるよう工夫していきたい。

○千里委員長

様式の文字を大きくすると内容が少なくなるので難しい。会議の場では、A4をA3で

印刷することなども考えられる。所管が見やすい方法を検討するというので、出来るところは分かりやすく作っていただきたい。

○千里委員長

全体を通して質問、意見はないか。

○吉川委員

正職員人件費とは何か。

○事務局

全ての事業に共通するが、事業のコストを事業費（A）、正職員人件費（B）、総事業費（A+B）で表している。

市では、正職員も事業に携わるにあたり労力をかけているので、正職員の給料もコストとして捉えるべきとして考えている。

正職員人件費（B）の計算方法について、毎年度算出される人件費の総額を正職員の人数で割り返すと、社会保険も含めて一人当たり700万円ほどのコストになる。各事業に正職員がどのくらいの割合で労力をかけているかを人工というが、1人工700万円、0.5人工350万円ほどかかる。あくまで理論上だが、所管課が人件費を事業に応じて分割して充てている仕組みである。

○千里委員長

専門的な用語も出て来るが、市民が少しでも分かりやすい形で作っていただきたい。

②意見交換

【質疑】

○千里委員長

本日ヒアリングを行った2事業に対する意見交換を行う。

まず、健康づくり推進事業の事業評価について、意見や改善案がある際は発言願う。

○神保委員

事務事業評価表はその年に特に強調して行ったものに重点を置いて作成しているのか。それとも市全体で行っている全ての事業を毎年同じように作成しているのか。

○事務局

事業は市役所全体で1,000本ほど実施しており、事務事業評価表は約4割作っており、残り6割は定例的な毎年同じ額の支出や国から指示されたオリジナルではないものである。市が判断して実施した事業についてはすべて事業評価を作っている。どれが大事とは選別出来ないなので、同じように全て議会に提出しており、ホームページでも公開している。必要とされる内容を各部局が記載して作成している。

○千里委員長

健康づくり推進事業について、他に質問、意見はないか。

（なし）

○千里委員長

次に、一般介護予防事業について、意見や改善案がある委員は発言願う。

○吉川委員

高齢者が対象なので、オンラインの話は言いにくかったが活用可能ではないか。

○千里委員長

高齢者も出歩くことが難しいので意外とスマホを見ている。プロジェクターの貸出も行っているので、様々なものを利用して事業への参加が出来る状況にある。

○神保委員

今は会場に集まることが厳しい時代になってきている。小学校や中学校の子どもはパソコンなどの使い方を勉強出来ると聞いている。しかし、高齢者は勉強する機会がない。パソコンのある家庭は多いが、利用方法の簡単な説明会が大事だと思う。何かを始める場合でもスマホを見るものが多く、それ自体行ったことがない人が相当の数いる。そのため、オンラインでの開催の場合には、高齢者は参加しづらくなっているので、操作や費用面などの指導などを行なっていただきたいと思う。

○千里委員長

今回ヒアリングした事業はコロナ禍だからこそ重要なものばかりである。コロナを恐れるあまり何もしないことによって病気になるリスクも心配である。密になってはいけないので新しいものを利用して行うことが出来るとよいが、特に高齢になると利用出来ない人も多いと思うので、教えられる体制があればよい。

これは年齢に関係なく得意不得意があるので、柔軟に対応していくことの出来る社会づくりが重要だと思う。社会が劇的に変化している中で、新しいものをすぐに反映出来ないことが気になる。

○神保委員

高齢者で話をすると「ユーチューブなどを見るとコストがかかる」というような費用の話になる。そのため、オンラインのイベントなども無理して参加せず、静かにしていた方がよいという発想になっている。

○千里委員長

高齢者は様々な企画に参加していたが、今は参加出来ない状況なので心配である。外に出られない状況の中で何か出来るとよいと思うが、事務局から何かないか。

○事務局

吉川委員から健康づくり推進事業の際にオンラインについての発言があったが、残念ながら実施していないという回答であった。一般介護予防事業では高齢者が主体となるのでオンラインは難しいという事情も理解していただいているが、E-リズムや体操などはユーチューブにも動画をアップしている。しかし、見方の紹介については十分ではない可能性があるため、見られる環境の提供やどのようにすると見ることが出来るかを情報提供することも必要だという意見として受止め、委員会からの提言と捉える。

○千里委員長

説明にあったプロジェクターの貸出は、グループに対して行うのか。

○事務局

プロジェクターの貸出は、高齢者クラブやサークルなどに持って行き、DVDを映して

体操を行うことをメインにしている。DVDそのものは、個人にも配布しているので、自宅のテレビで行うことが出来る。コロナの関係で高齢者クラブやサークルが集まることが出来ない状況なので、介護保険課では個人利用も進めている。

○千里委員長

講習するためのデータには著作権の関係があるので、引っかかることがないように作るのには手間がかかる。それがクリア出来ているのならば、インターネットで作ったものをDVDで貸出すこともあり得る。DVDを活用することで見られる方が増えると思う。

他に質問、意見はないか。

○伊藤委員

成果指標は数字のみで出ているが、数字以外の成果もあると思う。言葉で説明した方がよいものもあるのではないか。

○事務局

事務事業評価表について、基本的に表面の対象指標、活動指標、成果指標は数字で表現している。客観的に進捗状況を把握する場合に分かりやすいものとしている。伊藤委員からの数字以外の部分は、裏面に成果動向及び原因分析といった数字以外に書くことが出来る欄がある。事務局から各部署に指示はしているが余白が多く、あらためて表現するように指示していきたいと考えている。

○伊藤委員

アンケートの報告があったが、アンケートの意見はこのような部分に反映される形ではないのか。

○事務局

表面の数字で表現しきれないものは書くことが可能なので、該当がある時は記載していきたい。

○千里委員長

書き方についての意見は以前の外部評価委員会でも出ており、前よりはよくなった。以前は空欄が多かったのでなるべく埋めるようになってきていると思う。一方で実施していることを記載していないのはもったいないので、実施したことは書いた方がよいと思う。そのような意味では、空欄は少なくなったが記載欄に対して記載が少ないため、必要な情報をもっと記載してはどうか。市民は何をしたのか見て分かるものを求めている。委員は質問して理解しているので、必要なことを簡素化しながら書くことが重要である。

○神保委員

地域包括支援センターや社会福祉協議会が行っているもの、江別市が直接行っているものなど江別市全体の取組を整理してみたらよいのではないか。

○事務局

事務事業評価表は市の取組の評価のため、市が関与していない民間団体が行っているものは評価する立場にはない。そのため、全てのデータや内容を承知し得ない部分があるので、すぐに形として示すのは難しい。一方で、何か大きな課題が起きた時には行政だけで出来るものではなく、民間団体が率先して動いていただいていることがある。災害

などでは市が対応する前に地域の方々が動いていることがあるが、本来市として知らなければならない。そのため、市の中で検討会議や連絡会議を開催し、情報収集に日々努めている。

江別市内で行われている全てのことを示すことは難しいが、情報収集すべきことがあれば、引き続き様々な団体と連絡を取り、進めていきたいと思う。

○千里委員長

これだけのことではないと思うが、危機的な状況の時には市役所を超えて横断的に横とのつながりが重要だと思う。このようなことをきっかけにして進むとさらにまちが良くなると思う。

他に質問、意見はないか。

○神保委員

各事業の事業評価は行っているが、各施策の計画はこのコロナ禍の中で再検討する状況にあるのではないか。来年、事業評価を行う時にコロナが理由でたくさんの計画が出来なかったということになる可能性がある。計画そのものを早急に見直さなければならない状況になっていると思う。

過去の評価も大事だが、この激変する社会状況の中で先行きをどうするかについて検討し、方向を提起することが大事ではないか。

○千里委員長

今回コロナ禍で1年間生活し、様々な課題が見えてきた。安全を確保しながら出来ることを行い、場合によっては出来ないことをやめて出来ることに切替えることも必要である。計画や予算があるので行うのではなく、柔軟に対応出来る部分があってもよい。今回そのような形で出てはいないのか。

○事務局

本日は令和元年度の評価なので、過去の実績についての検証をお願いしている。計画の見直しについてが主題ではないが、ご意見はもってもである。

市では、令和3年度予算の編成作業中であり、令和2年度と令和3年度以降で内容を変えているものも多々あると思う。状況を見て、変更可能なフレキシブルな状態で予算を組んでいる部分もある。先を見据えて状況に応じた事業を実施しなければならない。

新型コロナウイルス感染症による環境変化に対する検証は、本日の議事(2)②でお諮りしようと思っているので、改めて委員の意見をいただきたい。

○吉川委員

一般介護予防事業は、成果が上がっている、成果向上余地は大きい、コスト削減する方法があるとなっている。次に、健康づくり推進事業では、成果はどちらかといえば上がっている、成果向上余地は少ない、コスト削減する方法はなしとなっている。

そこがオンラインの発言につながったが、健康づくり推進事業では、行うべきことを行って少しでも健康づくりに貢献したい気持ちはあるものの、これ以上は難しいという主旨だと思うので、他の部署と連携するなど新しいアイデアを出してもらうのはどうか。過去の例として、長野県では県全体として塩分摂取を控えて寿命を延ばした実績がある。

保健センターだけでは難しいが、他の部署と連携させることが必要だと思う。

○千里委員長

江別市は横との連携が苦手だと感じている。同じような内容を別の部署で行っているが、なぜ一緒ではないのかと思うことがある。今までの形では出来ないが、新しい取組としては可能性があるのかこれまでと違うやり方が出て来るのではないか。コロナで大変だから出来ないではなく、コロナで大変だから必要というように動けると良い。

健康や介護は時代の中で重要である。市民の命に関わるので、市民も期待している。

○事務局

2つの事業の裏面が対照的になっているが、保健センターも実施している事業を控えめに評価してこのような書き方になっていると思う。視点を変えたり、他の部署と連携することで新しく出来ることもあると思うので、この事業だけではなく、全体を通して部局間の連携や情報収集をして少しでも改善するようという意見をいただいたと捉えて取りまとめる。

○千里委員長

他に質問、意見はないか。

(なし)

○千里委員長

本日のヒアリング結果の取りまとめ方法について、事務局から説明願う。

○事務局

本日の結果の取りまとめ方法について説明する。

本日の記録については、発言の趣旨を損なわない程度に要約した上で議事録を作成し、各委員の確認後、公開する予定である。

ヒアリングを通じて得た2つの事業に対する結果については、事務局においてヒアリング内容を取りまとめ、令和2年度外部評価報告書(案)を作成する。令和2年度の外部評価報告書は、先日の第1回委員会で審議いただいた外部評価の実施方法、スケジュール及び対象事業の選定に係る内容を前半部分とし、本日ヒアリングを行った2事業に対する意見、改善提案を後半部分として作成する予定である。

外部評価報告書(案)は、各委員にお集まりいただいて内容の協議をしていただくことが望ましいが、新型コロナウイルスの状況もあるので、書面会議の形で審議いただくことを想定している。

○千里委員長

第3回行政改革推進委員会は書面会議の形式で行うとのことだが、どのような方法なのか詳しく教えてほしい。

○事務局

外部評価報告書(案)を作り、各委員に郵送させていただき、修正などが必要と思われる部分の意見を書面で提出していただく。

いただいた意見を基に、報告書(案)を修正し、どのような意見が寄せられてどう修正したかを付けたものを再度各委員に送付する。

一同に集まっていたことは出来ないが、これらのやり取りを通じて外部評価報告書の完成に結び付けていきたいと考えている。

この書面のやり取りをもって第3回委員会として取り扱わせていただく。

○千里委員長

書面で外部評価報告書の修正を行う形になるが、最終的な確認、調整は事務局と委員長である私に一任していただき、作成しようと思う。

(2) 令和3年度外部評価について

①対象事業の選定

○事務局

昨年10月の第1回委員会において、令和3年度は戦略2を実施することとなっているが、戦略2には、(1)から(3)までの3つの項目があり、前回委員会で協議いただいたとおり、原則としてそれらから一つずつ、計3事業を選定していただきたいと考えている。

また、過去に外部評価を行っていない事業を優先して選定いただきたいと考えているので、審議の際にはご配慮をお願いしたい。

○千里委員長

戦略2のうち、3つの項目の中からひとつずつ、過去に行政評価を行っていない事業を優先して選定するということだが、そうした考えで進めてよいか。

(了)

○千里委員長

過去に外部評価を行っていない事業を優先する場合、(1)未就学期児童への支援の中からは、子育て世代包括支援事業となる。

続いて、(2)教育内容の充実からは、スクールソーシャルワーカー事業と医療的ケア児支援事業の2つが候補となるので、事務局から説明願う。

○事務局

スクールソーシャルワーカー事業・医療的ケア児支援事業について説明

○千里委員長

2つの事業はどちらも重要な内容だが、医療的ケア児支援事業の実績が0なので難しいと思う。スクールソーシャルワーカー事業は、コロナも含めて非常に大変な状況になっている方がたくさんいると思う。

提案としては、(1)未就学期児童への支援の中からは子育て世代包括支援事業を選定し、(2)教育内容の充実はスクールソーシャルワーカー事業の2つがよいのではないか。

(了)

○千里委員長

それでは、この2つを選定して対応していきたいと思う。

続いて、(3)学齢期児童への支援は3つの事業があるので、事務局から説明願う。

○事務局

放課後児童クラブ運営事業・放課後児童クラブ運営費補助金・児童館地域交流推進事業
について説明

○千里委員長

どの事業も重要であるが、子育て世代の転入が非常に増え、江別市は若い人が増えている。共働きの世帯の子どもの居場所を確保することが、市の優先課題となっている。放課後児童クラブの運営費補助金について外部評価をすることが、この中では評価する意義が高いと感じたが、いかがか。

(了)

○千里委員長

それでは、令和3年度の外部評価対象事業の確認をする。(1)未就学期児童への支援は子育て世代包括支援事業、(2)教育内容の充実はスクールソーシャルワーカー事業、(3)学齢期児童への支援は放課後児童クラブ運営費補助金の3つの事業でよいか。

(了)

②感染症の影響を踏まえた検証

○事務局

令和2年度は、様々な市の事業が感染症の影響を強く受け、目標値を大きく下回る事業や、予定した取組が中止となった事業が多数発生するものと想定している。一方で、行政評価は、継続的に同一の指標で評価することにより、事業の進捗状況を客観的に把握し、必要な改善に結び付けていくべきものと考えている。そのため、指標や目標値等をいたずらに見直すことは相応しくないが、環境が大きく変わり、事業の実施内容が大きく変わる場合は、指標等の変更も必要なものと考えている。

また、進捗状況を定量的に把握するため、指標は全て数値で設定しているが、定性的な面も考慮するため、事務事業評価表の裏面には事業の環境変化や成果動向などを文章で記載する項目を設けている。

こうしたことから、令和3年度の内部評価については、感染症の影響などの特別な事情を考慮し、定量面・定性面の両方を含めた総合的な評価を行うことが望ましいと考えている。

そこで、令和3年度の外部評価におきましては、感染症の影響などを踏まえた内部評価となっているかどうか検証をお願いしたいと考えている。

具体的な各部への指示や、外部評価での取り扱い方等は今後検討するが、まずは、こうした考え方で進めていく方針でよろしいか、委員の皆様のご意見を伺いたい。

(了)

3 その他

○事務局

本日の議事録及び外部評価報告書(案)については、3月中に第1稿を作成し、委員に送付する。外部評価報告書(案)については、書面会議の形で各委員から修正などの

意見をいただき、委員長の確認をいただきながら取りまとめたいと考えている。

外部評価報告書は、完成後、市ホームページで公開する。また、ヒアリング事業を所管する健康福祉部など市の全部署に通知し、各部における今後の内部評価の参考とさせていただきます。

令和3年度のヒアリングについては、令和2年度決算の内部評価が完了するのが9月のため、令和3年度第1回の委員会は9月または10月の開催を予定している。また、同じ時期に行政改革推進計画の進捗管理も行っていただく予定だが、具体的な会議日程は時期が近くなったら、改めて相談させていただきます。

4 閉 会